

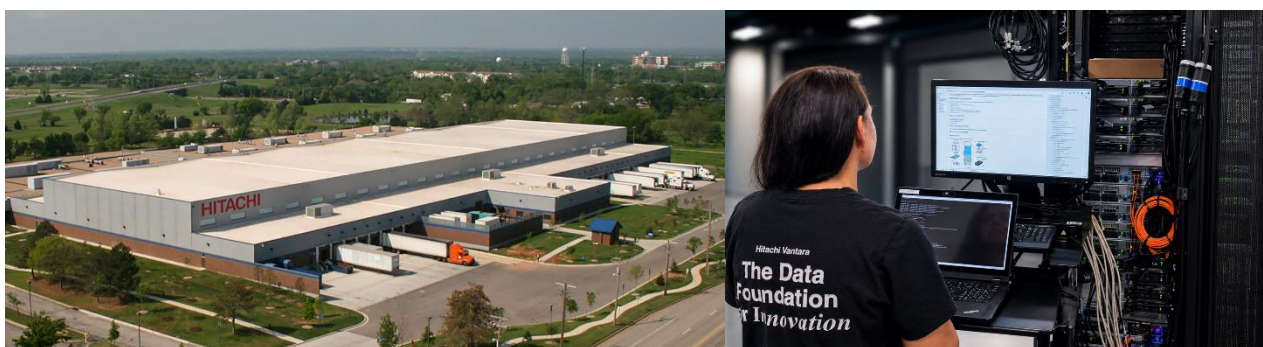
2026 年 7 月 15 日

株式会社日立製作所

日立ヴァンタラ株式会社

世界経済フォーラム(WEF)が選出する先進工場「Lighthouse」において 日立グループが 2 拠点目の選出

- ・ One Hitachi で実践した AI 徹底活用のカスタマーゼロでの成果が評価され、日立ヴァンタラの米国ノーマンに所在する先進的なストレージ製造拠点が Lighthouse に新たに選出
- ・ 自社実践で培った最先端の AI 知見・技術で HMAX の高度化を図り、日立グループおよびお客さまの AX を加速



米国オクラホマ州ノーマンのストレージ製造拠点

株式会社日立製作所(以下、日立)と、日立のグループ会社である日立ヴァンタラ株式会社(以下、日立ヴァンタラ)は、米国オクラホマ州ノーマンのストレージ製造拠点が、世界経済フォーラム(World Economic Forum、以下 WEF)より、AI やロボティクスなどの技術を活用した第 4 次産業革命をリードする世界で最も先進的な工場「Lighthouse (ライトハウス)」の一つに選出されたことをお知らせします。本選出は、2020 年に「Lighthouse」に認定された日立の大みか事業所^{*1}に続き、日立グループとして 2 拠点目となります。

ノーマン拠点は、AI 駆動型のビジネス変革を支える高度なデータインフラを製造しており、エンドツーエンドのデジタル製造・サプライチェーンの中核を担う拠点です。同拠点は、業務全般にわたり徹底した AI 活用を実践しました。グローバルでの需要予測や在庫管理に Agentic AI を活用し、受注から出荷までのリードタイムを 77%短縮、在庫を 50%削減する成果を達成しました。こうした需要の変動に即応できる AI を活用したレジリエントなサプライチェーンの構築や、CO2 排出量の大幅な削減といった包括的な取り組みが評価され、今回の選定に至りました。

日立は、自社をカスタマーゼロと位置付けて取り組んできたこれらの実践を通して、最前線の AI 技術や知見を取り込むことで、社会インフラを AI で革新する次世代ソリューション群「HMAX by Hitachi(以下、HMAX)」をさらに高度化し、日立グループおよびお客さまの AI トランスフォーメーション(AX)を加速します。今後、ノーマン拠点で得た知見を日立レールなどのグローバルな生産拠点にも展開し、One Hitachi で OT(制御・運用技術)領域の AX を推進するとともに、実践での確かな技術・ユースケースで HMAX を強化するスパイラルアップを図ります。

日立は、One Hitachi で HMAX の強化と提供に取り組み、グローバルな幅広い産業でお客様の現場の AX を加速させることで、サステナビリティや生産性、レジリエンスの向上による持続的な事業成長に貢献していきます。

*1 2020 年 1 月 10 日プレスリリース: [日本企業として初、日立の大みか事業所が世界経済フォーラム\(WEF\)より世界の先進工場「Lighthouse」に選出](#)

背景

Global Lighthouse Network は WEF が主導する取り組みであり、生産性、サプライチェーンのレジリエンス、顧客中心主義、持続可能性、人財の各領域で卓越した成果を実現した、トップクラスの事業拠点およびバリューチェーンを認定するものです。2020 年に日立の大みか事業所が日本企業で初めて Lighthouse に選定されて以来、日立は同事業所を「Lumada の実践工場」と位置づけ、現場で培った最先端のデジタル技術をグループ内外へ展開する取り組みをグローバルに加速させてきました。

現在、AI の急激な普及などに伴い、企業のビジネス変革を支えるデータインフラの需要は急増しています。米国ノーマン拠点では、AI 向けインフラストラクチャーの基盤を提供する「Hitachi Virtual Storage Platform One (VSP One)」のような信頼性の高いストレージ製品を製造しています。同拠点は、グローバルでの需要変化やカスタマイズ化が進む顧客要求により、約 3,000 種にも及ぶ複雑な製品構成へ迅速に対応するための意思決定のスピード向上やリソース調整といった課題解決に取り組んでいました。そこで、両社は連携し、最先端の AI・デジタル技術を同拠点に導入し、データ活用にとどまらず、AI による自律的な判断・制御まで踏み込んだ HMAX Industry のカスタマーゼロのショーケースとして、受注から出荷に至るエンドツーエンドのサプライチェーン改革を推進しました。

具体的な取り組み

(1) AI による需要予測と経営プロセスの高度化

AI を活用し、お客さまとの接点からバックエンドの計画までを一気通貫で最適化しました。まず、システム上の商談データから AI が月次需要を予測し、需要予測の精度を約 19%向上させました。さらに、営業担当者が受け取る RFP(提案依頼書)に対し、AI が技術情報や過去の提案内容を基に回答案を自動作成することで、お客さまへの反応時間を約 26%短縮しました。これらにより、変化の激しい市場環境に対応し、お客さまの高度なニーズに迅速に応えることができました。

(2) グローバルサプライチェーン全体の最適化

世界各拠点の在庫・サプライヤー情報を単一のダッシュボードに集約する「グローバル在庫コントロールタワー」を構築しました。AI が部品ごとに最適な安全在庫数を算出することで、欠品リスクを抑えながらグローバルで在庫を約 50%削減することに成功しました。これにより、キャッシュフローの改善と、棚卸資産の最小化を実現しています。

(3) AI による自律的な製造現場の実現

製造現場では、Agentic AI を活用した自律的なオペレーションを推進しました。お客さまごとに異なる複雑なソフトウェアの構成セットアップを、Agentic AI が複数システムから情報を取得・連携し、自動化しています。これにより、CTO(受注仕様生産)のリードタイムを 84%という劇的な短縮を達成しました。また、「リアルタイム作業ナビゲーター」が、デジタル作業指示と AI Vision による画像認識で作業逸脱をリアルタイムに検知し是正します。これらにより、新人作業員の研修時間を 80%短縮し、高品質なモノづくりと柔軟な人員配置を両立させています。

世界経済フォーラム(WEF) 常務理事 Kiva Allgood(キーヴァ・オールグッド)氏のコメント

世界をリードする製造企業は、もはや個々のプロセスを最適化する段階にとどまらず、オペレーティングシステム全体を再構築しようとしています。最新の「Lighthouse」に選定された工場は、いかにしてインテリジェンスが日々の操業体制に深く

組み込まれているかを示しています。これにより、企業はより迅速に対応し、継続的に学び、バリューチェーン全体で新たなレベルのパフォーマンスを引き出すことが可能になります。

日立製作所 執行役副社長 デジタルシステム&サービス部門長 阿部 淳のコメント

2020 年の大みか事業所に続き、ノーマン拠点が WEF の「Lighthouse」に選出されたことを大変誇りに思います。日立は「真の One Hitachi」体制のもと、自らの製造拠点をカスタマーゼロと位置づけ、徹底した AI 活用によるトランスフォーメーションを進めてきました。ノーマン拠点での Agentic AI を活用した成果は、IT・OT・プロダクトのユニークネスを融合する日立ならではの実践例です。今後、ここで得た知見やユースケースを HMAX を通じてグローバルなお客さまに提供し、産業界全体のレジリエンス向上と持続可能な成長に貢献していきます。

Hitachi Vantara CEO 兼 日立ヴァンタラ株式会社 代表取締役 取締役社長 島田 朗伸のコメント

世界中のビジネスが AI によって加速する中、それを支える強固なデータインフラの重要性はかつてないほど高まっています。日立ヴァンタラの主力製造拠点において、エンドツーエンドのサプライチェーン改革を成し遂げたことが、今回 WEF に高く評価されたことを誇りに思います。最先端の AI 技術を駆使し、この変革で培った知見を VSP One データプラットフォームや Hitachi iQ をはじめとする当社のソリューションに組み込むことで、私たちはお客さまのイノベーションを加速し、データのレジリエンスを高め、ハイブリッドクラウド環境全体にわたるデータの活用と価値の最大化を支援してまいります。

関連リンク

[HMAX | Lumada : 日立](#)

[Hitachi iQ | Hitachi Vantara](#)

[Hitachi Virtual Storage Platform One | Hitachi Vantara](#)

[The Gap Between AI-Capable and AI-Ready | Hitachi Vantara](#)

商標注記

記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

Global Lighthouse Network について

Global Lighthouse Network は、WEF が主導する取り組みであり、生産性、サプライチェーンのレジリエンス、顧客中心主義、持続可能性、人材の各領域で卓越した成果を実現した、トップクラスの事業拠点およびバリューチェーンを認定するものです。本取り組みは、グローバル製造業の未来を形作るために協力している業界のリーダーで構成される諮問委員会によって運営されています。諮問委員会には、アラムコ、フォックスコン・インダストリアル・インターネット、コチ・ホールディング マッキンゼー・アンド・カンパニー、シュナイダーエレクトリック、シーメンス、タタ・スチールが名を連ねており、ネットワークに参加する拠点やバリューチェーンは、独立した専門家パネルによって選定されます。次回の Global Lighthouse Network への参加申請受付は、2026 年 11 月に開始予定です。

日立製作所について

日立は、IT、OT(制御・運用技術)、プロダクトを活用した社会イノベーション事業(SIB)を通じて、社会インフラをデジタルで革新し続けるグローバルリーダーをめざし、環境・幸福・経済成長が調和するハーモナイズドソサエティの実現に貢献します。デジタルシステム&サービス、エナジー、モビリティ、コネクティブインダストリーズの 4 セクターに加え、新たな成長事業を創出する戦略 SIB ビジネスユニットの事業体制でグローバルに事業を展開し、Lumada をコアとしてデータから価値を創出することで、お客さまと社会の課題を解決します。2025 年度(2026 年 3 月期)売上収益は 10 兆 5,867 億円、2026 年 3 月末時点で連結子会社は 606 社、全世界で約 29 万人の従業員を擁しています。詳しくは、www.hitachi.com/ja-jp/をご覧ください。

日立ヴァンタラについて

日立ヴァンタラは、米国の Hitachi Vantara LLC との一体運営により、世界をリードするインベーターに対し、信頼性の高いデータ基盤を提供しています。データストレージ、インフラストラクチャー、クラウド管理、そしてデジタルの専門知識を通じて、お客さまが持続的なビジネス成長の基盤を構築できるようサポートします。詳しくは、日立ヴァンタラのウェブサイト(<https://www.hitachivantara.com/>)をご覧ください。

お問い合わせ先

日立ヴァンタラ株式会社

マーケティングコミュニケーション部

お問い合わせフォーム

<https://www8.hitachi.co.jp/inquiry/hitac>

[hivantara/site-inq/form.jsp](https://www8.hitachi.co.jp/inquiry/hitac/hivantara/site-inq/form.jsp)